

Monthly Report 2019. 1

今月のコラム

屋上の建屋

「屋上屋を架す」という言葉があります。屋根の上にさらに屋根を造ることで「無駄なことをする」ととえです。ところが雪国では必ずしもそれは無駄なことではないようです。屋根を二重にすることで、積雪の耐荷重の問題を解消し、同時に屋根と屋根との空間に空気の層を作ることで、効果的な消雪や「つらら」ができるのを防ぐのです。さすが生活の知恵ですね。

一方の首都圏、屋根上の屋根ではありませんが、屋上にさらに小屋を建て増しているのをよく見かけます。いわば屋上家屋で、ビルやマンションの屋上にプレハブ小屋を建てて有効利用を図っています。オーナーの物置であったり、私的ペントハウスであったりするようです。



ところで、新築建売住宅の世界では、いまだに違反建築が少なくありません。建築基準法で定められた容積率に収まるように建売住宅を建てて、規定の行政検査をパスするのですが、完了検査後にこっそり増築するのです。車庫上に新たな2階部分を作るような設計(?)を目にしますが、これも屋上家屋ですね。

この増築スキーム、実は初めからパッケージになっていたいたりして、仲介会社や購入客もその辺をわかまえていることが多いのです。「蛇の道は蛇」ということかもしれません。

ときにスペイン・バルセロナの誇り世界遺産「サグラダ・ファミリア」も1882年の着工以来、建築確認を取得できておらず、違反建築状態であったそうです。びっくりですね。

長い歴史における行政区の変更などによって、許可主体が変遷してこのような自体になってしまったそうですが、このたび観光客のアクセス改善や周辺道路の整備といったインフラ対策に約47億円をバルセロナ市に支払うことで建築許可をおろしてもらえる運びになったとのこと。さしずめ「地獄の沙汰も金次第」といったところでしょうか。

トピックス

現物資産の重要性

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

みなさま初詣は行かれましたか？ 当社のすぐ近くに「出世の石段」で有名な愛宕神社があるのですが、今年から電子マネーで賽銭を受け付けるようになったと話題となりました。「電子マネーでご利益があるはずがない」と考えてしまうあたり、私は古い人間なのでしょう。

実際、昔は米や農産物を奉納するのが「習わし」だったそうで、これが徐々にお金（お賽銭）に変わっていったときも、「違和感を感じる」とか、「不謹慎だ」とかで、民衆で物議を醸した



ただそうです。仮想通貨の流出が社会的にも大きな問題になったり、消費税増税対策におけるキャッシュレス決済の導入が検討されるこの時代、貨幣が誕生して以来のターニングポイント、まさに貨幣経済の歴史的な転換点と言えるのかもしれません。



一方、世界に目を向けるとハイパーインフレやデノミもありました。ベネズエラでは1ヶ月で物価が2倍のペースで上がるという事態がおこり、食品を買うにも大量の紙幣が必要となりました。米ドルしか受け付けない商店も増え大混乱となりました。原油輸出に経済の基軸を置いていたベネズエラは、原油価格の急落とともに貨幣価値の信任を失ったのがキッカケとされています。金保有の裏付けが貨幣価値を強くしている（私見です）スイスとは対比的です。2019年の日本も、年明けから波乱含みの金融マーケット、先行きも不透明です。こうなると現物資産の安定性を再認識せざるを得ませんね。

おおばやし